

ひがし

通算第 125 号

2026.10.15 No.41

九重支部解放学習会

10月18日に九重支部開放学習会が開催されました。講師は松本章さん(部落解放同盟大分県連合会 書記長)が「部落差別」という演題で講演をしてくださいました。

松本さんは、講師が一方的に話をする講演会では、5%程度の人にしか内容が届かないということで、グループ討議を取り入れながら部落問題について一緒に考えるという形式で会をすすめてくれました。

グループ討議の内容は、「2024九重町人権意識調査」の問27(裏面参照)についてでした。

グループ討議で出された意見を紹介します。

○ほとんどの年代で「なくすことができる」が50%以上あり、これまでの教育や啓発が成果を上げていると思う。
○年配ほど「なくすことができる」が多くなっているのはすごいと思った。

○40代が「なくすことが難しい」が80%もあるのはなぜだろう。

○地対財特法がきれて、部落解放基本法ができるまでの、いわゆる空白の20年の世代なのだろうか？

○差別はなくすことはできると思うが、差別意識をなくするのは難しいと思う。

○ネット社会で子どもが間違った情報を信じてしまうことが怖い。

○子どもたちもそうだが大人も真実を見極める力をつける学習が必要だと思う。

○部落差別と女性差別、外国人差別などに違いがあるのだろうか。どれも人が苦しめられるのだから差はないと思うが。

○部落差別と他の差別の違いは、他の差別はその人だけが差別されるが、部落差別は、その人一代で差別が終わらず、子や孫まで続いていく差別でそこに違いがあるのでは？

などたくさん意見がでました。

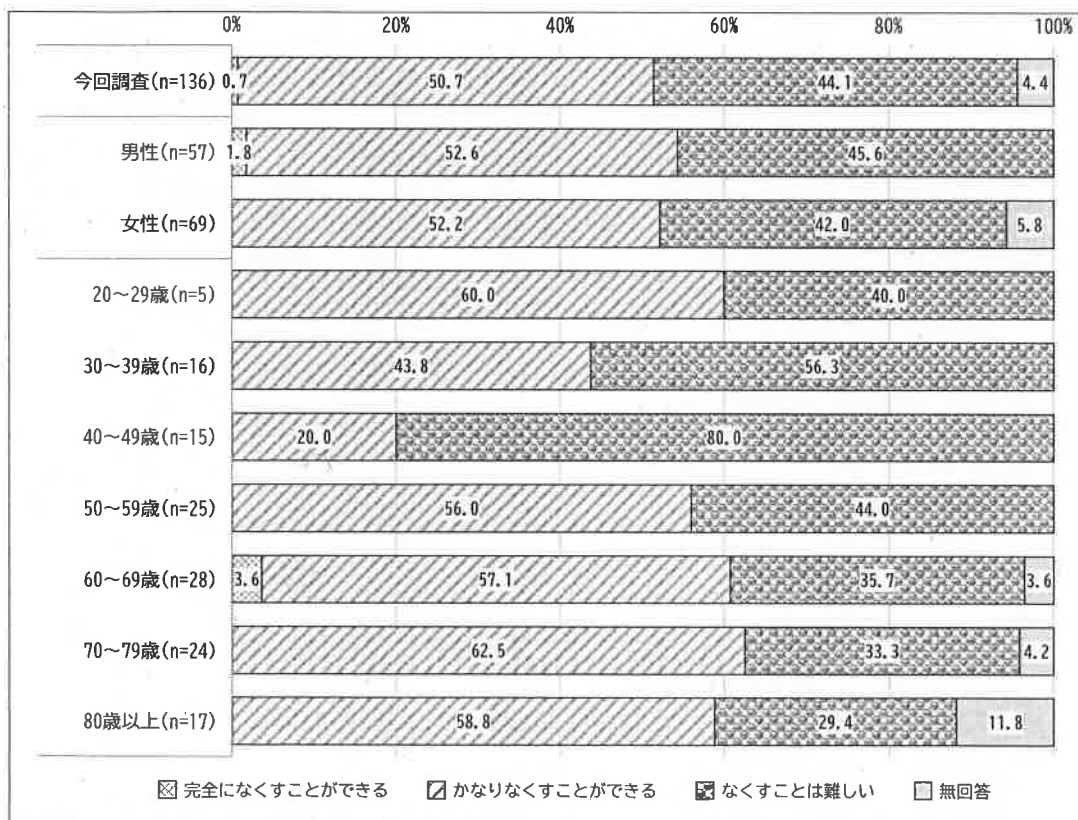
松本さんは、部落差別を解決できれば、人権の問題は解決する。ともおっしゃっていました。

問27 あなたは、差別意識は近い将来なくすことができますか。(単数回答)

○全体では「かなりなくすことができる」が50.7%と最も高く、次いで「なくすことは難しい」44.1%、「完全になくすことができる」0.7%となっています。

○性別でみても、「かなりなくすことができる」が最も高く、5割を超えています。

○年代別でみると、30～40歳代では「なくすことは難しい」、その他の年代では「かなりなくすことができる」が最も高くなっています。(問27～30：20歳代はサンプル数が少ないため参考程度)



【他調査との比較】

